



# 宮城小通信

郡山市立宮城小学校

学校便り No.53

令和7年2月13日

文責：校長 伊藤 孝行

2月13日は「日本遺産の日」です。



2月の「に」と1「い」3「さん」を組み合わせて「日本の遺産の日」ができました。

この少々強引な語呂合わせの記念日は、2020年（令和2年）に一般社団法人・日本記念日協会により認定・登録されました。

現在日本遺産は全部で104認定されていて、郡山では、明治時代の安積開拓や安積疏水に関する「未来を拓いた『一本の水路』」として、登録されています。

せっかくなので、安積開拓について簡単にお話したいと思います。

年代	明治時代の主な出来事
1873年	開成社が大槻原（開成山）開拓開始
1874年	開成館が新築される
1878年	久留米藩士ら2000人が移住し開拓
1879年	安積疏水工事が始まる
1882年	安積疏水工事が完成する
1887年	東北本線上野～郡山が開通する
1889年	沼上発電所ができ郡山に電気を送る

上の年表にあるように1873年に開成社によって始まった開拓が1878年からは国の事業として進められ、1882年には安積疏水が完成しました。国の事業として認められたのは大久保利通の働きが大きかったようです。

安積疏水の完成により飲み水にも困っていた郡山にたくさんの水が流れ、農業（米作り）も盛んになりました。

	安積疏水前	安積疏水後
田の面積	4,000ha	10,000ha
米の生産量	4,500 t	50,000 t以上

それ以外にも、安積疏水の水と蚕のさなぎを餌に鯉の養殖も盛んになりました。

その後、東北本線が開通したり、安積疏水の水を利用して電気を作る沼上発電者が建設されたり

して郡山は一気に発展を遂げたのです。

そして、今から100年前の1924年に郡山町と小原田村が合併して郡山市が誕生しました。

現在の中田町は以前は中田村と呼ばれ、1965年に郡山市と合併して郡山市中田町となりました。

校庭の雪もだいぶ少なくなってきました。



<先週の校庭の様子>



<今日の校庭の様子>

先週降った雪ですが、ほんの少し温かくなったため少しずつ溶けてきて、今日の校庭は、さすがに雪遊びはできなくなってしまいました。

学区内の道路を走ると、こちらも大半は溶けてきましたが、それでも日陰の場所を中心に所々溶け残ってアイスバーンになっているところが見られます。車を運転される方は、日陰のアイスバーンにはくれぐれもご注意ください。

インフルエンザに代わり新型コロナ流行へ

一時期猛威を振るったインフルエンザですが、郡山市内の小中学校の今週はインフルエンザに感染した子どもの数は一桁になっていました。しかし、新型コロナの感染が広がり連日50人を超える感染者が出ており今後が心配されます。

これからもできる予防対策としては、手洗い・手指消毒、必要時のマスク、体調不良時の外出は避ける、ワクチン接種です。自分でできることにきちんと取り組みたいと思います。